

はせさんず

2011 春号 NO.54

ニュース

2011年4月8日(金)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

デイホーム

■迎え準備
 ルートマップを片手に福祉車両のドライバーと添乗員のミーティングが始まります。当日の利用者のキャンセル情報を確認。利用者宅へタイムリーに迎えに行かれるように、渋滞を避けつつ、大田区の狭い道を安全に運転していきます。



ヘルパーステーション

■電話の鳴る朝
 朝5分間会議。早朝サービスに出かける人もありますが、管理者を中心に、夜間の伝言や訪問予定など5人のサービス提供責任者が情報を共有。ヘルパーから利用者宅でのサービス開始を報告する電話も次々と入ります。



訪問サービスへ

電動自転車やバイクに乗って、利用者宅へ向かいます。入浴介助



脳トレ

■脳トレ
 デイに到着して看護師のバイタルチェックがすんだら、午前中はまず利用者個別に脳トレニング。＋α×÷の計算、漢字の読み書き、ことわざやクロスワードに取り組み利用者のそばで職員もいっしょに考えこみます。■そろって体操
 「今日は何月何日?」と利用者への問いかけ

はせさんず介護保険スタッフある日の奮闘記です



で始まる体操の時間。話のきっかけを作るため職員は昔の記念日を雑誌などから探します。50年前を回想することで、昔の銀座の話からおもしろかった畑のもぎ取り野菜など楽しい話題で盛り上がります。



家事援助サービス

エプロン姿になり、挨拶しながら利用者の様子に変わりがありません。



などチェック。洗濯機のスイッチをいれ、献立の相談をしてから近くのスーパーで買い物、食事作り。食べるペーシや量、飲み込み具合など観察しながらも食事を楽しんでもらうように心がけます。



手作りランチ

■手作りランチ
 高齢者向けの食材を調理員が手作りしているランチはデイホームの特徴のひとつ。体操をしている最中にも、調理室からただよってくる温かい匂い。



外出

■外出
 機能訓練や社会参加としての外出。ゆっくり歩きながら、また職員の手押し車椅子で、近くの池上本門

ケアサポート



サービス提供責任者に訪問サービス中のヘルパーから、利用者の体調が悪いようだと言った連絡が入ると、すぐケアマネジャーに報告相談します。



本日の業務終了

■本日の業務終了
 夜間は留守番電話と緊急時用の転送電話に切り替えます。



デイサービス帰宅

■デイサービス帰宅
 デイサービスから車両で帰宅する利用者を「お疲れ様でした」と訪問介護ヘルパーが出迎えます。介助しながら玄関へ。デイサービスと訪問サービスのつながりを感じます。

被災者へ義援金のお願い

3月11日の東日本大震災からはや一週間が経過しました。会員の皆様お変わりございませんでしたか。お見舞い申し上げます。はせさんずの事務所は大きな揺れでプランコに乗っているようにでしたが、デイホームのご利用者は無事、キャビネットも食器棚もパソコン機材も無傷でした。訪問介護の高齢者や移動支援をしている知的障がいの子供さんたちにも何事もありませんでした。職員は帰宅の電車、バスがなく4〜5時間かかった者もいて、交通事情と停電は当分不安材料です。ガソリンが1リットル20円までとか。ペーパー類、おむつ、レトルト食品やパンが不足です。買い溜めのせいでしょうか。でも、東京は今のことろこの程度です。東北地方を中心とした災害の酷さ、原発の限りない不安を思えば問題なしです。はせさんずは被災者への募金箱を設置しました。どうぞできる限りのご支援をお届けください。よろしくお願いたします。市民協が仙台に支援の拠点を作りました。早速、はせさんずからも看護師が参加する予定です。(坂口)

寄せられた義援金をひとまず次の団体へ届けました。
 公益法人さわやか福祉財団
 へ3月23日に20万円、NPO法人市民福祉団体全国協議会へ4月6日に23万円。

ヘルパー研修会

3月25日(金) 池上会館にて

「トランスファー」を研修テーマに、講師は特養などの施設や訪問介護の研修で活躍されている長尾洋江先生。トランスファーとは言葉どおり移動・移乗することで、利用者をベッドから車椅子へ、またベッド上での位置換えなど、身体介護の基本の技術でありながら難しい部分です。介護技術も日々進化しています。介護職がリタイアする



使用した介護用品はフランスベッド(株)メディカ用品川営業所の提供です。

理由のひとつに「腰痛」がありますが、今回は介護職自身の体に負担をかけない最新の介護技術を習得することが目的です。これは利用者の体にも負担の少ない優しい介護となるものです。

また、優れた介護用品も開発されています。そのなかでも注目されているスライディングシートを使い演習しました。これがなかなかの「優れた」で、利用者の体を楽に移動させられることを皆で体験しました。長尾先生の指導はわかりやすく、改めて「移動や移乗は力まかせにするものではない」と実感。今後も新しい技術を勉強していきたいと考えています。

移送サービス活動日誌

大澤恵美子・吉田安男

3月4日(金)、東京ボランティア市民センターと東京ハンディキャップ連絡会の共催で「今改めて運営協議会を考えると」と題して移送サービスの集いを開催。参加者は福祉有償運送実施のNPO法人・タクシー事業者・行政担当者、はせさんずから移送担当の大澤・吉田が出席。

東京ハンディキャップ連絡会 荻野代表の司会進行で、まず参加者の自己紹介と福祉有償運送運営協議会の近況が述べられた。利用者の地区在住者限定、運転活動者並びに使用車両の制約など、各地の厳しい状況が報告された。全国移動ネットワークに東京ハンディキャップ連絡会の意見内容が説明された。はせさんずとしては、福祉有償運送をより促進、拡大するには、①国交省の道路運送法による旅客運送規約だけでは難しいのではないかと、②移動を必要としている高齢者や障害者の歩行困難者は、むしろ厚労省の福祉行政の管轄で考慮すべし、③利用者、実事業者両サイドの現状をふまえ、法制度並びに運営協議会のあり方を再検討すべきではないか、などを提案した。

市民後見人養成講座を終了

昨年11月から今年1月まで全5回の講座が終了し、3月20日に修了式を行いました。13人の修了生がめでたく修了証を坂口理事長から手渡されました。続いて、矢嶋が講師となりフォローアップ勉強会を開催。後見人申立ての具体的手順について学びました。受任までの期間を無駄にせず、演習などを重ねて、いざ後見を依頼されたら、いつでも引き受けられるように準備を整えておきたいと思えます。本講座に協力いただいた高齢社会NGO連携協議会、シニアルネサンス財団、大田区社会福祉協議会の各団体に深謝します。

今後は大田区社協の監督人としての体制が整い、一日も早く市民後見人の活用が実現することを願っています。(矢嶋早苗)

事務局だより

■新スタッフ
1月16日付で西條継子さん(デイホーム介護職)として入り

2月1日付で青木賢一さんが事務職兼デイホーム運転職として入りしました。



青木賢一



西條継子

どうぞよろしくお願います。

はせさんずに来て

井出 清美

この仕事に携わり、通勤時に介護関係の通行車両を意識するようになった。数多くの事業者が参入しており、水面下では利用者の獲得競争が熾烈を極めていると思われま

す。はせさんずは理念の中で「行政ではできないきめ細かなサービスの提供」を掲げています。しかし現実の競争社会のなかで、はせさんずといえども引き続き地域の方々から、選んでいただければ保証はあります。これからはさらに、サービスがきめ細かく、優しい・親切・楽しい・家庭的と利用者から常に評価をいただけるよう、私も職員の一員として役割を果たしていきたい。

総会&交流会

5月29日(日) 池上会館

NPO法人設立15年を迎え、本年は総会と会員交流会を同日開催。

■13時30分
第一部 総会

■15時~16時30分
第二部 記念講演会
「自治体とNPOの協働」
NPO法人たすけあい
の会 ぶきのとう
理事長 國生 美南子

■16時45分~18時
第三部 交流会

はせさんず各部門スタッフより 聞いて! 聴いて!

会員制たすけあい活動
東日本大震災の義援金をはせさんずの会員・関係者で幅広く集めている。すでに大田区のある町会では避難者の受け入れを開始。また大田区としては、区民・企業・区民活動団体との大田区被災地支援ボランティア調整センター(区民協働施設・蒲田)を立ち上げた。はせさんずからも運営委員を出して生活再建支援に協力していきたい。地域のたすけあいの力を結集して、笑顔のある震災前の日常に戻れるように! (佐藤悟)

ヘルパーステーション
最近、40~50歳代の障害のある利用者から訪問介護や外出介護の依頼が目立ちます。これまで支えていた両親が高齢になり、介護を続けることが困難になってきたようです。今後同様のケースが増えていくと思われます。ヘルパーステーションでは団塊世代の男性介護者が増えている折から、できるだけこのような利用者の力になると同時に、介護者にとっても地域貢献できる機会となることを願っています。(棧敷洋子)

ケアサポート
介護保険改正に向けていろいろな意見が出ています。良かったり悪かったり、施行10年を過ぎてまだまだ問題はありますが、サービスの種類も増えて需要に近づいてきました。近頃デイサービス事業所新規開設で自費の宿泊サービスが目玉になっているようですが、これも必要とする人が多いためでしょうか。来年の改正で法に基づく運用と定め、安心して利用できるようにしたいものです。(金子由貴)

デイホーム
昨年11月30日に男子中学生2名に車椅子の操作方法や各部の名称等を教えた。私自身まだまだ教わる身なのだが、人に教えるという事は自分の勉強にもなり、再確認ができた。中学生も話を真剣に聞いていた。これからもこのような機会を作って、今の子供たちにもっと介護・福祉に興味を持ってもらえたらと思う。私も介護技術を磨くと同時に、明るく楽しい、笑いのあるデイホーム作りをめざしていきます。(清野英知)

元気がいい
元気でいられることの幸せに感謝しつつ! 3月の元気がいいは東日本大震災の余波で中断しました。しかし会員のなかから義援金の募集を元気がいいで実施してほしいとの要望が出ています。4月から予定通りのスケジュールで活動していきますが、個人での献金も行えるよう準備しました。このような時期でも楽しく活動することを続けるとともに、被災された方々を思いやる気持ちを持ちたいと思います。(井元一彦)